

新型コロナウイルス感染症海外短信 — ドイツVI

2021年8月20日

加久間 景子*

ドイツでは、現在、新型コロナ以外に、9月の総選挙や、先月半ばの水害での大きな問題を抱えている。ドイツで始めて水害の犠牲者が200人以上という大参事に見舞われ、歴史的な町が流されてしまったりして復興には大変な時間と費用が必要と言われている。

この中で、依然としてコロナは猛威を奮っている。

4月20日頃に一時、感染者のピークを迎えたが、その後、ワクチン接種件数が増えるとともに7月はじめまで感染者を減らすことに成功した。勿論、ロックダウン、夜の外出禁止、抗体検査の義務化等も同時に実施された。

その結果、全国平均10万人当たりの感染者が、(地域によって異なるが)5人にまで減少した。7月現在では、ヨーロッパ各国においては、Delta株が占める感染者が急激に増えていたが、ドイツでは、大きな影響は見られなかった。しかし、8月5日現在、Delta株の感染者がじりじりと増え、10万人に対する感染者数も19人に達している。感染者の90%がDelta株である。

現在、最も恐れられているのは、この変化が連日僅かであっても止まっていないことにある。現状の勢いが続くと、秋に次のロックダウンの可能性があると言われており、その打開策が現在検討されている。

ヨーロッパは地続きであり、昨年夏休み後に秋のロックダウンに追い込まれたため、同じことを繰り返さないことが次なる課題となる。そのため、8月1日から、交通機関に関して従来飛行機だけだった対策を、全ての電車、車、船の航行で年齢に関わらず、ワクチンパスか、PCR検査の陰性結果が求められる。

また、イギリスのような危険性が高いと指定された国との行き来に関しては、国に指定されている場合は陰性であっても2週間の自宅での隔離生活を要求されている。

ワクチンは、現在、総人口の53.7%が二度目の接種済み(一度目は40%)となっており、60歳以上は80%にまで達している。当初より、ワクチン接種率80%が一つの目標と言われていたが、若い人で、ワクチンを受けない層があり、それが全体でワクチン接種率が80%に至らない原因となっている。

ドイツでは、ワクチンの量は充分にあり、アフリカその他の貧しい国への援助が行われている程である。現在子供(12歳以上)は親の了承さえあれば、学校で接触することが始まりつつあるが、州によっては考え方が異なる。ワクチン接種を増やすため、ワクチンパスの利点を広げ、逆にワクチンを否定する健康な人に公の場での催し物などの参加を否定する等の案が出ているが、これでは人権問題にまで発展しそうな騒ぎになっている。

* 在ドイツ音楽家。なお、本稿は、加久間景子氏からの情報提供を本財団理事長光多長温がまとめたものである。